

青山学院大学 vs 産業能率大学

10月5日(日)
11:30K.O.
青学大 G

後期、2連敗のあと2連勝の青学大と、後期開幕から連敗が続く産能大との対戦。上位2チームの昇格ラインについていきたい青学大と、降格圏を脱出したい産能大。勝利をつかむのはどちらか。

青学大は前節、平国大に1-0で勝利した。シュート数は11-3と圧倒したものの、89分によやく得点を奪っての辛勝であった。しかし今季初の1-0という勝利は、比較的多数得点を奪いながら失点も少ない青学大にとって、特に首位を破って上り調子の平国大に粘り勝ったことで、チームとして一皮剥けるきっかけになる試合でもあったのではないだろうか。福永泰コーチも「相手に合わせてしまうのが青学大の悪いところだが、90分緊張感を持ってできた」と評価した。ただし、1点を奪うのに苦労した攻撃面では「崩しにこだわるのはリスクもある。シュートエリアをもっと広げる必要がある」(福永コーチ)。再浮上を狙うには正念場の試合だ。一方の産能大は前節、法大に0-2で敗れた。前半だけで10本のシュートを浴びながらもゴール前ではしっかり対応したが、クリアボールが味方に当たって相手にこぼれる不運もあり、後半に入って2点を献上した。後期はまだ勝点がなく、前期から通算6連敗中と苦しいこ

とは確かだが、守備から攻撃にシフトチェンジした際の勢いや押し上げの意思統一は少しずつ戻りつつある。加藤望監督も「前半はよく無失点で抑えた。少しずつ手ごたえは積み上がってきている。今は辛抱の時」と話した。青学大は記念すべき関東リーグ初勝利を挙げた相手。粘り強く、結果を追い求めたい。

<3回警告>山田武典(青学大)、楠元秀真・見留耀太・須永亮(産能大)

<前期の対戦>青学大0-1産能大

青学大	産能大
6. 服部	15. 杉崎
7. 荒木	11. 青木
3. 御牧	19. 石渡
18. 山田	8. 浜下
8. 伊藤	10. 見留
4. 後藤	26. 桜井
29. 上村	32. 木下
13. 澤井	4. 楠元
10. 関谷	17. 岡村
2. 堤	6. 遠藤
1. 高橋	1. 森谷

神奈川大学 vs 東洋大学

10月5日(日)
13:50K.O.
青学大 G

再び首位に立った神大と、2試合連続3得点と勢いの出てきた東洋大との、2連勝同士の注目の対戦。勝点差は5。いよいよ昇格争いを射程圏内にとらえた東洋大が、前期に続き神大に勝利できるか。神大も徐々に調子を戻しつつあるだけに、好ゲームが期待される。

その神大は前節、好調の日大を3-2で下した。DF長野祐太(4年)の鮮やかなFKで9分に先制。前半終了間際に追加点、66分には3点目を奪いダメ押しかと思われたが、79分、86分と追い上げられ、最後は1点を守り切った形となった。「相手が3バックになり、人数的なミスマッチがあって勢いを止められなかった。もう少し賢くやらないといけない」(松永道敬総監督)。3点を先行しながら薄氷の勝利ではあったものの、後期初の複数得点を記録し、ケガ人が戻りつつあることも加え復調の兆しが見えたのは本格的な昇格争いに向け明るい材料とも言える。今季初黒星を喫した嫌な相手ではあるが、攻撃陣が結果を出して勢いを取り戻したい。

対する東洋大は前節、東農大を3-0で退けて2試合連続3得点で連勝し、チームが良い流れに乗ってきている。「法大戦で選手たち自身が戦い方をつかんだ」と古川毅監督が話したように、法大に勝利した勢いのまま試

合開始1分も経たないうちにいきなり先制点を奪い、前半だけで3得点を記録した。しかし、大量リードを受けて後半はややペースダウン。「守備面ではしっかり守ってはいたが、まだ対応が甘い部分もある」(古川監督)。隙を見せれば付け込んでくるのが上位のチーム。先行し、運動量も集中力も保ち続けた法大戦の再現なるか。

<3回警告>長野祐太・鈴木翔大(神大)、小山大貴・遊馬将也(東洋大)

<前期の対戦>神大0-1東洋大

神大	東洋大
3. 高木	16. 石坂
11. 星	8. 小島
4. 藤原	4. 郡司
16. 武田	7. 斉藤
10. 伊東	18. 遊馬
24. 鈴木	20. 仙頭
6. 前田	22. 伊藤
29. 南	25. 徳市
32. 岡田	12. 瀧澤
7. 長野	10. 平石
	3. 筑井

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています *

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.16

編集：五味亜矢子 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



昇格争いは混戦の様相!

6試合とも、上位グループvs下位グループとの対戦となったJR東日本カップ2014第88回関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグ。首位の関学大が東学大と1-1で引き分けた以外は、すべて上位陣が勝利を収め、日大に3-2と辛勝した神大が同勝点ながら首位に返り咲いた。3位・拓大は日体大に2-1、4位・法大は産能大に2-0で勝利し、5位・東洋大が東農大に3-0と快勝。首位から5位までが勝点5差と縮まり、混戦の様相を呈してきた。6位の青学大も、平国大に1-0で競り勝って上位陣に食らいついている。後期に入って5試合目。今節は、首位の座を奪い返した神大と、

得点ランキング

9:	星子	直哉	(平国大)
8:	遊馬	将也	(東洋大)
7:	富樫	敬真	(関学大)
	萱沼	優聖	(")
	中野	春樹	(日大)
	成瀬	琢斗	(")
6:	全2名		

アシストラランキング

7:	大森	勇希	(拓大)
6:	伊東	純也	(神大)
	仙頭	啓矢	(東洋大)
5:	萱沼	優聖	(関学大)
	恵	龍太郎	(青学大)
	小林	玲櫻	(日大)
4:	全5名		

勢いが出てきた東洋大との対戦が注目を集める。得失点差は上位2チームが突出しているものの、今節も一つの勝敗で大きな順位変動が見られるかもしれない。

JR東日本カップ2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第15節終了時。上段が前期の対戦結果)

順位	2部	神大	関学大	拓大	法大	東洋大	青学大	日体大	日大	東学大	東農大	平国大	産能大	勝数	負数	分	得点	失点	得失	勝点
1	神大		2●3 11/15	4○0 11/9	3○1 11/2	0●1 10/5	2△2 10/18	0△0 10/26	1○0 3○2	3○1 10/11	3○0 1△1	5○3 1●2	4○0 1○0	9	3	3	33	16	17	30
2	関学大	3○2 日体大G		2○0 10/26	2○1 11/9	1●2 2○0	1●4 11/1	2△2 10/18	4○2 10/4	3○0 1△1	2○1 10/11	5○0 0●1	3△3 1○0	9	3	3	32	19	13	30
3	拓大	0●4 横須賀	0●2 古河		0●3 10/19	2○0 11/2	3△3 11/15	2○0 2○1	2○0 0△0	0●3 10/4	1○0 1△1	5○0 2○0	1○0 10/11	8	4	3	21	17	4	27
4	法大	1●3 法大G	1●2 横須賀	3○0 味スタ西		2○0 2●3	2△2 3○1	0△0 11/15	4△4 10/25	2○0 3○1	1○0 10/4	0△0 10/11	2△2 2○0	7	3	5	28	18	10	26
5	東洋大	1○0 青学大G	2○1 0●2	0●2 法大G	0●2 3○2		1△1 11/9	1●2 3○1	0●1 10/11	0●1 11/15	1○0 3○0	3○2 10/25	4○0 10/18	8	6	1	22	17	5	25
6	青学大	2△2 青学大G	4○1 産能大G	3△3 産能大G	2△2 1●3	1△1 夢の島		2○0 10/11	2○1 1●3	0●2 10/25	3○0 2○1	1△1 1○0	0●1 10/5	6	4	5	25	21	4	23
7	日体大	0△0 保土ヶ谷	2△2 江戸陸	0●2 1●2	0△0 日体大G	2○1 1●3	0●2 日体大G		0△0 11/8	1○0 0●2	1△1 11/1	2○1 10/4	4○1 2○1	5	5	5	16	18	-2	20
8	日大	0●1 2●3	2●4 日体大G	0△0 0△0	4△4 平国大G	1○0 東洋大G	1●2 3○1	0△0 江戸陸		2○0 3○1	1△1 11/15	0●2 10/18	3○0 11/1	5	6	4	22	21	1	19
9	東学大	1●3 日体大G	0●3 1△1	3○0 法大G	0●2 1●3	1○0 東学大G	2○0 早大G	0●1 2○0	0●2 1●3		0●1 10/18	3○2 11/1	1△1 11/8	5	8	2	16	22	-6	17
10	東農大	0●3 1△1	1●2 産能大G	0●1 1△1	0●1 法大G	0●1 0●3	0●3 1●2	1△1 日体大G	1△1 東学大G	1○0 千葉東総		1○0 11/9	5○0 10/25	3	8	4	13	20	-7	13
11	平国大	3●5 2○1	0●5 1○0	0●5 0●2	0△0 東洋大G	2●3 平国大G	1△1 0●1	1●2 日体大G	2○0 川口	2●3 日体大G	0●1 たつこの		4●6 11/15	3	10	2	18	35	-17	11
12	産能大	0●4 0●1	3△3 0●1	0●1 産能大G	2△2 0●2	0●4 青学大G	1○0 青学大G	1●4 1●2	0●3 産能大G	1△1 たつこの	0●5 東国大G	6○4 産能大G		2	10	3	15	37	-22	9

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

悩むより、走り出そう。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会

RECRUIT

日本体育大学 vs 平成国際大学

10月4日(土)
11:30K.O.
日体大 G

後期、1勝3敗の日体大と2勝2敗の平国大との対戦。お互い前節は1点差で敗戦を喫しており、後期後半戦に向けて仕切り直しを図りたい。

日体大は前節、拓大に1-2で敗れた。立ち上がりは、リズムが戻りつつあるパス回しでペースをつかみ12分に先制点を奪ったものの、結果は逆転負け。昇格争い参戦の可能性を残すには重要なゲームと位置付けて臨んだ試合ただけに、倉又寿雄監督は「勝ちに行っていたのでこの負けは痛い。試合の入りは良かったが、速攻から失点して崩れてしまった」と嘆いた。後期は攻めながら逆襲を受けて簡単に失点するシーンが多いが、この日も先制点から約10分で同点を許してリズムを崩し、PKで逆転と、負け方としてもダメージが大きい。「平国大はハードワークできるし身体も張れている。そういう部分で負けないようにしたい」(倉又監督)。

その平国大は前節、青学大に0-1の敗戦。89分に1点を献上しての惜敗であった。その前の試合で首位の関学大を破り、一気に降格圏の脱出を目論んだものの、連勝はならなかった。試合は、全体的には押されながらも持ち前の運動量と粘りで得点を許さず、西川誠太監督も「最後に質の良いボールで決められてしまったが、そ

の他は問題なく戦えていた。あまり心配していない」と慌てた様子はなかった。ただ、この日はシュートまで持ち込むシーンが少なく、試合終了間際の失点で勝点1も逃した。今節は後期、負けが込んでいる日体大が相手だけに、身体を張った激しい試合が予想される。ボールを奪ってからの速攻の精度が勝敗を分けそうだ。

<3回警告>藤井貴之・ンドカ ポニフェイス(日体大)、尾林一輝(平国大)

<前期の対戦>日体大2-1平国大

日体大	平国大
2. 高野	25. 玉田
10. 阿部	5. 小松崎
3. 広瀬	19. 増田
23. 小泉	22. 横瀬
1. 伊藤	9. 星子
25. 輪笠	6. 鎌田
14. 藤井	21. 馬屋原
4. 桂	7. 尾林
13. 増谷	20. 村川
11. 小山	2. 増田
26. 福田	10. 堀越

法政大学 vs 東京農業大学

10月4日(土)
11:30K.O.
法大 G

後期3勝目を挙げて昇格圏まで勝点4差をキープしている法大と、後期まだ勝点1にとどまっている東農大との対戦。昇格を見据える法大に対し、残留争いに取り込まれてしまった東農大がどう戦うか。

法大は前節、産能大を2-0で下した。その前の試合で、3点を奪われ後期初黒星を喫していただけに、無失点での快勝でダメージを引きずらなかったことは大きい。立ち上がりから圧倒的に攻めながら得点に至らず、前半の終盤は逆に耐える時間帯に。決定的なピンチもあっただけに、長山一也監督は「今まではこれで先制されていた。ボールを出してくるところへ(詰めて)行ける状況をもっと作っていかねばいけない」と、勝って兜の緒を締めていた。後半はシュート数こそ減ったものの、セットプレーを含むとはいえDFが2得点と、どこからでも点を取れる力を見せつけた。このまま昇格圏にどこまでついていくことができるか。

対する東農大は前節、東洋大に0-3で敗れた。記録上のシュート数を見れば7-7の同数だが、試合開始から1分も経たないうちに先制点を与えてしまったことが相手を勢いづかせて試合の流れを決め、さらに10分、26分という早い時間での3失点は致命傷ともなった。

「シンプルにスペースを突いてきた相手に対応できなかった。結果的には完敗」(秋吉保浩監督)。後半は、東洋大がややペースダウンしたこともあってボールを持つ時間が増えたものの、「それを始めから、自分たちからできないのが課題」(秋吉監督)。まずは試合の立ち上がりに集中し、粘り強い試合運びができるかどうか。<3回警告>青島拓馬・永戸勝也・相馬将夏(法大)、小田原貴・金裕志・加藤聖哉・村山翔(東農大)

法大	東農大
2. 永戸	2. 中西
14. 白石	8. 佐々木
22. 田代	9. 相川
5. 山口	20. 加藤
21. 富澤	10. 浜田
9. 相馬	21. 松尾
18. 鈴木	25. 金
29. 黒柳	5. 櫻岡
13. 藤本	23. 山本
8. 三田	14. 石川
6. 星	3. 加藤

関東学院大学 vs 日本大学

10月4日(土)
13:50K.O.
日体大 G

首位を陥落してしまった関学大と、前期からの無敗記録が6で途切れた日大の対戦。双方とも後期2連勝のあと1敗1分と足踏み状態。調子を取り戻したい試合だ。

関学大は前節、東学大と対戦して1-1の引き分けに終わった。後期初黒星のあとの試合で、立ち上がりは下位ながら復調の兆しが見える東学大の勢いに押され、7分で2試合連続の先制点を許した。しかし、10分経たないうちに同点とし、また相手が前線から厳しいプレッシャーをかけてきた中でも落ち着いた対応を見せたという面では、今季の成長と自信が垣間見えたとも言える。同点となってからはお互いに展開の早い拮抗した試合となり、後半はビッグチャンスもつくり出したが相手GKの好守に阻まれた。石村大監督は、「けが人も多く、我慢の時かなと思う」としながらも「もっと自分たちからアクションを起こすというメンタル的な成長が必要」と苦言も呈した。真価が問われる試合となりそうだ。

対する日大は前節、神大と対戦して2-3で敗れた。結果的には1点差の敗戦だが、3点ビハインドから試合終盤に2点を返しての惜敗ただけに、エンジンのかかりが遅かったことが悔やまれる。9分とアディショナルタイムに失点した前半はシュート数も0。「何を恐れ

たのか、ボールに行けていなかった。3バックにしてようやく動きがよくなった」と川津博一監督が話したように、55分の選手交代以降は攻撃のリズムをつかんだが、そんな中でカウンターから献上した3点目が痛かった。1点差に追い詰めた面では、好調を維持してきた片鱗を見せたと言えるだけに、今節は立ち上がりから思い切りの良いプレーを見せられるかどうかを鍵を握りそうだ。

<3回警告>成瀬琢斗(日大)

<前期の対戦>関学大4-2日大

関学大	日大
2. 吉田	29. 高田
8. 普光院	7. 廣田
3. 原島	3. 奥村
18. 萱沼	19. 高山
1. 井田	13. 中野
7. 太田	9. 宇都宮
23. 長谷川	10. 小林
19. 山口	2. 長谷川
22. 井上	14. 成瀬
14. 三橋	6. 中村
16. 木村	

拓殖大学 vs 東京学芸大学

10月4日(土)
13:50K.O.
法大 G

後期に入って負けなしの拓大と、復調の兆しが見える東学大の対戦。前期は東学大が快勝したカードだが、拓大のチーム状態は数段良くなっている。一方東学大も調子は悪くなく、接戦が期待できる。

拓大は前節、日体大と対戦して2-1で勝利した。今季の勝利はすべて無失点でのもので、初めて先制されながらの逆転勝利を飾った。12分で先制点を与えたことは課題ではあるが、逆転して勝ち切ったのはチームにとって新たな自信をもたらすのではないだろうか。先制されながらも23分に追い付き、後半に突き放した後は守備の意識を高めて相手のパワープレーに対応するなど、上位チームらしい試合運びを見せた。玉井朗監督も、「日体大はフィジカルも技術もあり、こういう試合で勝てたことはチームにとって大きい」と喜んだ。特に、球際の競り合いでも日体大に引けを取らなかった。この流れのまま、昇格圏をとらえることができるか。

対する東学大は前節、首位の関学大と1-1で引き分けた。後期初勝利の流れを持ち込み、立ち上がりから積極的な攻撃を仕掛けて7分に先制。16分にセットプレーから同点弾を許したが、首位チーム相手とはいえ一進一退の好ゲームであり、チーム状態が上向いていること

は明らか。それでも、檜山康監督は「後半はセカンドボールを拾えず、2~3人の連携で崩されることがあった。守備ではラッキーもあった」と反省点も口にした。GK須賀健太(3年)の好守も光った。前線からのプレスとコンパクトな試合運びは少しずつ安定感が出てきているだけに、降格圏を突き放して上位浮上を狙いたい。<3回警告>三浦勇人・多田和明(拓大)、富澤右京(東学大)

<前期の対戦>拓大0-3東学大

拓大	東学大
13. 新山	5. 廣木
7. 大森	18. 久保
6. 紙谷	9. 山田
5. 谷之口	4. 脇本
1. 佐川	7. 平田
19. 森川	1. 須賀
18. 河野	29. 南
14. 宗像	11. 五十嵐
3. 三浦	21. 永井
4. 小針	16. 富澤
16. 高橋	2. 吉田